

小田原市スポーツ推進審議会

平成29年度第1回審議会概要

日 時：平成29年7月27日（木）午後3時から午後4時40分まで

場 所：小田原市生涯学習センターけやき 2階 大会議室

出席者：【委員】

江島会長、鈴木副会長、岡部委員、小泉委員、山本委員、設楽委員、遠藤委員、宇佐美委員、河戸委員、志村委員、佐藤委員、木村委員

以上12名

※欠席委員：市川委員、森委員、川向委員

以上3名

【小田原市】

関野文化部長、遠藤文化部副部長、尾沢スポーツ課長、草柳スポーツ課副課長、鈴木主任、関主事

以上6名

司 会 本日は公私ともに御多忙のところ、平成29年度第1回小田原市スポーツ推進審議会に御出席いただき誠にありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、スポーツ課副課長の草柳と申します。よろしくお願いたします。

まず、本審議会は「小田原市スポーツ推進審議会条例」に基づき、委員定数の2分の1以上の御出席をいただきましたので、会議が成立するかたちとなります。

なお、この審議会は、「小田原市情報公開条例」に基づき、公開することになっております。したがって、市民の方が傍聴される場合もありますので、御承知ください。また、議事録等の作成の関係で、この会議を録音しますので併せて御承知ください。

1 あいさつ

司 会 それでは、文化部長の関野から開会にあたりまして、御挨拶を申し上げます。関野部長、お願いたします。

（関野部長が挨拶を行った）

次に、初めて会議に参加される方がいらっしゃいますので、皆さまには簡単に自己紹介をお願いしたいと存じます。

江島会長、鈴木副会長に続き、岡部委員から席の順にお願いいたします。

（委員自己紹介を行った）

続いて、本日出席しております、事務局職員を紹介させていただきます。

(事務局職員紹介を行った)

それでは議事に移りたいと思いますが、進行は会長にお願いいたします。江島会長、よろしくお願いいたします。

2 議題

(1) 小田原市スポーツ振興基本指針に係る実施事業について

江島会長 それでは次第に基づきまして進行させていただきます。

議題(1) 小田原市スポーツ振興基本指針に係る実施事業について、事務局から説明をお願いします。

尾沢課長 それでは、議題(1)「小田原市スポーツ振興基本指針」について御説明いたします。昨年度に、小田原市スポーツ振興基本指針を改定し、平成29年度から平成34年度までの本市スポーツ振興のための基本的な方向性を示しました。今後はこの基本指針に基づいて、各種スポーツ事業を実施していくものでございますが、本日は、より有意義な事業実施のため、皆さんに、次第にもございますとおり、「①事業実施の現状と今後について」、「②オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップに係る事業の位置付けについて」の2つの内容について、御意見、御提案、そして情報提供などをいただきたく考えているものでございます。まず、①実施事業の現状と今後につきましては、資料の1から5を用意いたしましたので、こちらから説明いたします。資料1は、昨年度にスポーツ推進審議会でも御意見をいただきながら改定しました、小田原市スポーツ振興基本指針に示してございます4つの目標と、「する」「みる」「支える」といった3つの指針ごとに、どのようなスポーツ事業が実施されているのかをまとめたものでございます。事業については、市スポーツ課が主体となっており、市体育協会が行っているもの、そして、その他として、地域の体育振興会、体育協会加盟の各種目団体、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員などが実施しているものを、区別して記載しております。なお、資料1の2ページ目の下半分、目標4の「する」「みる」「支える」の欄が空欄(事業名の記載がない)であるのは、これは、目標4の「スポーツを全くしない人を15%減少させ、成人週1回以上のスポーツ実施率を65%にします」との目標は、目標の1・2・3のそれぞれに記載してございます各種スポーツ事業を実施していった結果、達成されるものと考えられることから、目標4にはすべての事業が該当すると思われれます。すべての事業が該当するとの意味で、特定の事業を記載しなかったもので、目標4に該当する事業がない、というわけではございません。資料2・3・4・5は、資料1に記載してございます事項についての説明資料となっております。資料2は、「する」「みる」「支える」のスポーツ振興基本指針の内容について示したものでございます。資料3は、資料1に記載のございますスポーツ事業のうち、市スポ

ーツ課と市体育協会の事業内容を説明したものでございます。資料4は、資料1の1ページ目の目標1、指針の「する」、市体育協会の事業の欄に記載のございます「各種競技会」と「各種スポーツ教室」について、具体的にはどのような教室や競技会が行われているのかを示したものでございます。資料5は、資料1の1ページ目の、目標1、指針の「支える」、スポーツ課の事業の欄に記載しております「障がい者スポーツ情報交換会」についての説明資料になります。昨年度に改定いたしました小田原市スポーツ振興基本指針の中では、「生涯スポーツ推進のためには、スポーツ団体とともに高齢者や障がい者にかかわる団体等も含め、幅広く関係機関が連携する」ことの必要性が掲げられており、障がい者スポーツの振興については、現在、市内の障がい者関係団体、スポーツ団体、行政とが連携を図りながら具体的な事業展開を図るよう、情報交換会を行っております。資料の説明は以上のとおりでございますが、課題（1）の①実施事業の現状と今後につきましては、資料1においてお示しいたしました本市のスポーツ事業を御確認いただいたうえで、今後、小田原市スポーツ振興基本指針にスポーツ事業を展開していくうえで、どのような事業が不足しているのか、どのような事業を新たに実施していくことが必要か、また、他市などの実例において効果的な事業例がございましたら、皆さんから、御意見、御提案、情報提供をいただきたく本日の議題として、あげさせていただいたものでございます。皆さんからいただいた御意見等は、今後の実施事業を考えていくうえでの参考とさせていただきたいと考えております。次に②オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップに係る事業の位置付けについてでございます。オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップに関わる本市の取組については、資料6にお示ししたとおり、オリンピック・パラリンピックでは、「事前キャンプ受入れに関連した取組」「未来のアスリート支援・育成」「障がい者スポーツの振興」、ラグビーワールドカップでは、日本代表チームの合宿受入れや、ラグビー振興のための教室やイベントを実施している状況にあります。小田原市スポーツ振興基本指針においては、オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップに関わる事業をどのようにとらえ、どのように位置付けていくのか、また、今後、どのような事業を実施していくことが、市民のためのスポーツ振興に繋がっていくのか、明確にしていきたいと考えております。また、2019年のラグビーワールドカップや2020年の東京オリンピック・パラリンピックが終了した後に残る「市民のためのレガシー」をどのようにとらえ、考えていくのかも、明確にしておく必要があると思っております。このため、本日、皆さんには、オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップに関し、これらの点について、御意見をいただきたく考えております。①スポーツ振興基本指針に係る実施事業の現状と今後について、②オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップに係る事業の位置付けについて、御意見、御提案、情報の提供をよろしくお願いいたします。議題（1）小田原市スポーツ振興基本指針に係る実施事業についての説明

につきましては、以上でございます。

江島会長 事務局のほうから、小田原市スポーツ振興基本指針に係る実施事業について説明があったが、皆さんのほうで、御質問、付け足しなどあればお願いしたい。

鈴木副会長 資料1の1ページ、指針の「する」の欄に、小田原市文化部スポーツ課の事業がない。どちらかというと、小田原市体育協会とかその他の関係団体などが中心に行っている。要は大会が中心になっている。大会が中心になると、非実施率の人は大会には来ないので、普段から何かを「する」と言う事を、小田原市文化部スポーツ課がリーダーシップをとり、スポーツ推進委員や地区の体育振興会と一緒に考えて、新しく仕掛けていかないと非実施率を下げて実施率を上げることができないのではないかと思う。資料7の小田原市スポーツ振興基本指針を生かすためにもどうするか検討願いたい。

江島会長 鈴木副会長からお話があったが、皆さんのところで資料に載っていない事業が他にあれば出していただきたいがいかがか。

設楽委員 資料を作る前の情報収集が少ない状態で資料をまとめているように感じる。各種団体の細かい部分もまとめ上げないと資料はできないと思う。情報収集が不足しているのではないかと見受けられるがいかがか。

江島会長 事務局はどのようなタイミングで作ったのか、どんな情報収集をしたのか。

尾沢課長 資料の作成にあたりましては、基本的にはスポーツ課で、ある程度把握している情報をまとめさせていただいております。当初は、市が何を行っているのかをまとめようと考えましたが、それですと全体像が見えないということで、我々の把握している中ではありますが、体育協会の事業ですとか、地域で行っている事業なども落とし込んでいます。設楽委員から御指摘があったとおり、全部を事前に調査して把握をしてここに落とし込んだということではございません。

江島会長 設楽委員で、良い情報収集の方法があったらお願いしたい。

設楽委員 小田原市の地区を6つのブロックに分けているが、各ブロック内で行っている事業や各体育振興会で行っている事業等には非常に細かいものがあるので、資料を作る前にその辺を集約してピックアップしていかないといけないのではないかと思う。事務局も忙しいとは思いますが、できる事なら、各地区にもう一度下ろしてまとめることが基本のように思う。これを作る為の情報提供の場をもっていただければと思う。

江島会長　今のことについて事務局のほうから考えはあるか。

尾沢課長　議論いただく上で、そう言ったものが必要であれば、調査もかけて資料1を充実したものに作り上げたいと考えております。

江島会長　先程、鈴木副会長から出た「仕掛け」がないことと、設楽委員の、市内で色々なことがなされているのではないかということを含めて、それをスポーツ課のほうでどんな形で集約し、どんな形で仕掛けをもっていくのかを考えるためには必要かもしれないなど考える。

他の委員はいかがか。

仕掛けがないとのことであるが、実際に、団体に入っていない人達でもスポーツを行っている人はたくさんいるので、その辺のところはどう考えていくのか。資料1のその他は、どちらかと言うと公的な事業になるが、個人で教室を開いて何かを行っているとか、剣道や柔道などの道場を持っているとか、そういうものすべてがスポーツにかかわってくるので、その辺のところをどうするのかも大きな問題だと思う。非常に膨大な情報収集になるという感じもしないでもないが、皆さんいかがか。

宇佐美委員　仕掛けになるかどうかについて、アンケートの統計データを見ると、体育協会を知らないとか、スポーツ推進委員を知らないというのが目立つ。鈴木副会長がおっしゃった大会が多い中の仕掛けのところで、実施することにかけて、体育協会やスポーツ推進委員の存在や文化部スポーツ課がどんなことをしているのかを、宣伝を絡めて何か行うのが良いのかなと思う。そして、要望している中で一番多いのは、健康体力づくりや、ウォーキング、サイクリングが出ていたので、その辺の所を吸い上げ、事業の情報配信ができると、知らない＝参加しない　という人達の減少に繋がり、成人週1回以上のスポーツ実施率を65%にする目標の達成に向かっていくのではないかと思う。どこでどの様にアピールするかは難しいが、例えば、サイクリングは、皇居の周りの道路の車の通行を時間帯で止めて、自転車だけ通行できる事を実施している。ウォーキングは小田原各地でいろいろな事を実施しているので、今度は色々なレベルでのサイクリングの事業を増やしていくとか、アンケート結果の、知らない・やってみたい等に合っている実施事業があれば、それをもっとアピールするという方法で広げていくこともできるのではないかと思う。

江島会長　御提案があったが、他にはいかがか。

鈴木副会長　4月24日に県立辻堂海浜公園で「アウトドア活動マニアのファミリースポー

ツフェア」という事業を行った。9月23日には「自然外遊びファミリースポーツフェア」を横浜根岸公園で行う。4月のフェアには8,000人の人が集まった。小田原にも色々な公園がある。〇〇大会とすると、特定の人しか集まらないので、非実施率を上げていくためにも、フェアの中にいろいろなものを用意し、いろいろな形で、広い公園にたまたま来ていたという人も含め、不特定多数の人が集まっているいろいろな事ができるというような事業を文化部が立ち上げる事も必要ではないかと思う。

江島会長 例えば、体育協会では、大会だけではなくフェスティバルや教室を行っているが、そこに参加してスタートするきっかけを作り、それをいかに実用化していくのが、鈴木副会長のおっしゃった「仕掛け」に繋がると思う。なかなかその辺のところは難しいのではないかと思うが、他に皆さんで何かあれば出していきたいが、いかがか。

河戸委員 国際医療福祉大学に勤めており、転勤で小田原市に移り住んで、私の子ども達が東富水小学校でサッカーをしているが、入居する時に、いろんなサッカーチームを探した。住まいはアリーナの近くだが、例えば、バドミントンフェスティバルは今知った。そういったことが現状なのではないかと思う。先程も、情報の開示というのがあったが、私もこういった会にも参加させていただき、情報網はいろいろと張り巡らせているが、それでも知らない事がある。ということが市民の現状なのではないかなと思う。市民の立場からすると、情報があまりにも少ないかなと感じている。現在はスマートフォンがあるので、そこで情報発信し、情報が得られるようになればもう少し参加率が上がるのではないかと思う。また、年配の方には別の方法で情報発信し、施策を次々と練っていかないと実施率65%は達成できないと思う。

江島会長 広報が大事だと言うお話だったが、実際に、広報的なものは体育協会でも遅れていると思っている。9月から今お話があったように、インターネットを利用したものに変わることになっている。参加状況等もインターネットを使ったものに切替えて、徐々に情報発信していこうと思っているが、小田原市の方ではいかがか。

尾沢課長 小田原市の場合、情報の一番のツールとしましては「広報おだわら」になります。また、市のホームページでは、様々な情報の一つとして、スポーツ情報が載っているという状況です。それ以外に、新聞記者等への情報発信をして、メディア等で取り扱っていただければ、そこから発信できるというような状況です。

具体的に、こういうタイミングでこういうツールを使ってこういう情報の出し方をすると有効だった、というような事例がありましたら教えていただければあ

りがたいと思っております。

江島会長 皆さんのほうからいかがか。

設楽委員 今、尾沢課長が言われたようなことが、神奈川県のだこかの市か町で、タウンニュースか市の広報の中に、スポーツ覧というのが1ページあり、小さい事業でも細かく載せていて、連絡先に連絡すると案内してくれて、非常に参加者が増え活性しているとのことである。小田原市ではタウンニュースは有料で、インターネットは見られない人がいる、体育協会の広報誌は月に一度で、全家庭が見ている訳ではない。

今、グラウンドゴルフ協会のリーダーをしている関係で、夏休みの間、小学4～6年生を対象に、講習会をしようと言う事で、各小学校の校長先生にお願いし、スポーツ課経由で文章を出してもらった。8月から行うが、市街地の小学校に通っている保護者の方から、うちの小学校ではやってもらえないのかと電話があった。なぜ広報を使って知らせしてくれないのとも言われた。全く同じ様なケースで、西湘体育センターで、ニュースポーツとグラウンドゴルフを、毎月第一日曜日に行っているが、西湘体育センターの近所に住んでいる人と利用者は知っているが、一般の人には案内がされていないのでほとんど知らない。県と市がタイアップして情報発信することで一般の人も参加することができると思うので、そんな形で検討してみしてほしい。

江島会長 なかなか広報だとかは難しいところが多々あるが、体育協会でも、地域・各種目協会の連絡員の方々には、こんな大会や行事を行っていることを体育協会に教えて欲しいと伝えているが、その連絡委員の方がこちらに連絡をしないと、情報が結局発信できない。そういうことも含めて、広報のあり方をもう少し見直していかないといけないのではないのかと思う。年代別の広報の仕方もあり、工夫が必要で、そういうことをやらないとスポーツ推進にならないこともあるかと思うが、これからそういうことも含めていろいろな団体にも声を掛けていくことが大事なのかと思っている。

時間的にも資料1だけを中心に行っている訳にはいけないので、オリ・パラの事、ラグビーの事を含めて皆さんから意見をいただければと思うが、オリ・パラの話が先程あったように、これから小田原市としてオリ・パラを上手く活用した意味でのレガシーのうえに何を求めていくのかがこれから問題になっていくと思うので意見も承りたい、また、ラグビーが行えるように城山陸上競技場の改修を行ったが、ラグビー等を含めて施設をどんな形で活用していったら良いのかについても皆さんから御意見をいただきたいと思う。また、城山陸上競技場だけではなく小田原アリーナなど、市の他の施設の活用についても御意見をいただければ、いわゆるスポーツ振興に結びついていくと思うのでお願いしたい。

非常に大きく括れば、小田原市のスポーツ環境をどんな形にしていけばよいのかになるが、大きな括りでも構わないので皆さんの御意見をいただきたい。

スポーツ環境ということになるとさまざまな組織・人・施設・精神的のもの・自然・広報的なこと、すべて含まれてくると思うが、そんな形で、オリ・パラやラグビーも含めて皆さんの御意見と、また、資料1についてでもかまわないので御意見をいただきたい。

山本委員　バドミントン協会ではバドミントンフェスティバルを行っている。今回、オリンピックメダリスト選手の一団を呼ぶ事にいろいろな問題がある。一番は交渉料、宿泊料、食費代などに係る予算の問題がある。そして、フェスティバルの広告の中に、2020オリンピック・パラリンピックの機運を盛り上げるといったような言葉を使おうとしたところ、組織委員会から勝手に使ってはいけないと言われた。オリンピック・パラリンピックは、どの大会においても日本中の人達が注目しているものだと思う。その中で、小田原の環境を見てみるとオリ・パラの機運が盛り上がっているように見えない。その原因の一つではないかと思うが、小田原市企画政策課と体育協会との連携が不十分なので、これから時間をかけてうまくやっていく事と同時に、各競技団体が動かないとアスリートの人達を呼びイベントを開く事はなかなか難しいと思うので、その辺の連携を上手くやっていく事が必要ではないかと思う。

佐藤委員　子ども会を担当している。先程、江島会長からお話があったように、どんなことをやっているのか分かるという事が数年前から問題にあり、子ども会の下に小学校、その下に育成会があるのですが、保険を掛けるために、育成会に年間行事を年に一度発信している。その中で、各地区で情報交換を行う事もある。したがって、体育振興会・体育協会や各団体でも、年間行事を上手く使って情報発信することも良いのではないのかと思う。

また、民生委員の集会の中で、地域包括支援センターの方を呼んでお年寄りを対象に簡単な体操を行っている。こういった事も資料1のその他の事業に入れていただければと思う。

江島会長　他にはいかがか。

小泉委員　老人会などいろいろなところに顔を出していて、ある地区は週に3日朝6時からラジオ体操をしていたり、ある地区は遺跡めぐりをしながら半日歩いたり、個々に皆さんやっていて、自分の所は把握しているけれどよそは分からないという状況なので、情報の収集は難しいが必要な事なので、各団体や地域で行っている情報を出して集計発表したらいかがか。

江島会長 皆さんのほうで、スポーツ推進にかかることなどあれば出していただければと思う。

山本委員 総合型地域スポーツクラブの城下町スポーツクラブは、多種の種目を誰もが行えるというのが基本なので、効率的にいろんな種目が行え、いろんな施設を利用するので、多種の種目を行うクラブがもっとできれば効率よく広がり生まれるのではないかと考えている。

遠藤委員 情報の問題が色々出ているが、競技の方をみて推進の事を考えると、子どもたちの運動環境がよくないと思う。酒匂川スポーツ広場は大雨が降ると非常に危険なので、もう少ししっかりした施設がないといけないと思う。城山陸上競技場でラグビーができるようになったが、その前に、子どもたちのスポーツの場を備えるべきではなかったのかと考えている。

ラグビーそのものが小田原市民にとってどれだけのものなのかという事の検討が十分あったのかどうか、自分たちの知らない間にラグビー場ができていたような感じがしている。少なくとも、子どもたちの運動の場をもう少し何とか考えていただきたい。そうでないとこれからのスポーツの振興にはよくないのではと考えている。

江島会長 他にはいかがか。

設楽委員 スポーツ推進委員で、今年の9月2日に県の講師を招いて、パラスポーツ（ボッチャ）の講習会を行う。これは、子どもから高齢者までが行うことができ、そして室内で安全にでき、健常者も障がい者も行えるということで、今広めようとしている。その中で出てきたのが、用具の費用の問題で、小田原市各26地区に広めようとするのが難しいと思うが、行政と地域が一体になって予算づくりと場所の提供を検討していただきたいと思う。

山本委員 今、パラのお話があったが、バドミントンフェスティバルで車いすの選手が2名来るが、小田原のホテルに車いすで泊まれる所がない。探した結果、サンサンヒルズがバリアフリー的だったのでそこに決めたが、お風呂に入ることが難しく選手の方になんとか納得していただいた。パラでは設備を整えないとなかなか難しいのではないかなと思う。

江島会長 大変シビアなお話である。

佐藤委員 小田原アリーナで障がい者の方の観戦スペースがあまりにも狭い。そもそも階段や観客席を下りることが車いすの方にはできないと思う。障がい者スポーツの

検討も必要だが、観ることにしてももう少し検討する必要があるのではないかと
思っている。

江島会長 他にはいかがか。

木村委員 県の立場なので、小田原市に限っての意見ではないかもしれないが、まず、小田原市の色々な方々が集まって意見を出し合う事がとても素晴らしい事だと思っ
て聞かせていただいた。体育協会の活動やスポーツ団体を動かしている方々とい
うのは、ほとんどがボランティアの感覚でしか動けない事だと思う。その中で、
このような会議にも参加してスポーツを推進していく事がとても大変なことであ
ると感じながら、もう少しこうすれば良いのではと思ったことと、教員の研修を
受け持っている視点から言わせていただくと、小・中・高の体力測定をしたとき
に、いろんなきっかけが大切という事で、昨年度、初めて質問の中に「心理的な
要因」を入れて子どもたちに聞いた。その時に、「達成感がある子」・「挑戦する気
持ちのある子」・「自己肯定感がある子」というのが、体力テストの数値の良い子
どもたちに達成感を強く感じ、挑戦するという意欲も強くなり、自信をもって行
うことも強くなるという結果が出た。それを支えているのが幼児期の楽しい体験
で、楽しく体を動かすことが一番大切で、そこで体力向上として自然に体を動か
すことが大切ということが分かってきていると書いており、その部分で、幼児だ
けで体を動かすのは難しいので、それを支える30～40歳代位の方の運動実施
率向上が必要なのではと感じている。現在、50～60歳代の方の運動実施率は
上がっているが、一番忙しく仕事が多くなっている30～40歳代の方の実施率
が下がっていると言われているので、その部分を向上さなければいけないこと、
子どもたちは学校で運動ができるが、特に高校を卒業した女子と中学を卒業し高
校へ行った女子は一気に運動実施率が低くなる。その子たちをターゲットとして
考えるのも大切である。一番は、幼児期の楽しい体験であるが、その次に学歴を
過ぎて行く子たち、更に青年期になった30～40歳代の方々をターゲットにする
のが、運動実施率として一番大切なのだろうと思う。狙いを定めて広報していく
事とか、色々な事業を考えていくと言う事が必要であると感じた。

それから、他団体が何をしているのかを知らないという広報の部分について、
広報は横が連携しないとまずできないことで、横の連携を上手くしていくことに
行政の力が非常に強くなり、行政がどう取りまとめ土台を作り、そこに広報を入
れることによってみんなが見ることができるとか、ポスターを作ることができる
というものがあると横の連携が非常に重要になっていくと思う。

この二つが気になったのでお話させていただいた。ただし、事業を起こしてい
くという部分の予算や、マンパワーに限りがあると思う。その部分を考えて時に、
小田原市だけで考えるのではなく、例えば、県を上手く使って、広報だけは小田
原市内にするが、やっているのは県というのもありだと思う。広報をし、スポー

ツに触れる人数を増やすことが目的だと思うので、小田原市で事業をしてそれに参加してもらうことには限界があると思うので、プラスアルファの部分で県を利用していただいて、県にはスポーツリーダーバンクがあり、指導者の紹介や派遣の依頼があれば県内で650人程の登録の中から、いろいろな種目のリーダーを紹介することができると思う。それから、体育施設のこんな所が使えるのではないかという紹介もできるので、小田原市民に対しての広報を広めていくとスポーツを行う人も増えていくのではないかと感じた。

神奈川県の方々に健康になってもらうために、昨年度末に「神奈川県スポーツ推進計画」という条例を制定した。その中で謳っていることを市の中に活かして利用していただき、小田原市の発展に繋がれば良いと思った。

江島会長 県との繋がりのお話でしたが、いろいろな団体や行政も含めて、いかに利用するかという事が大事との事でしたので、そういう事も考えていく事も大切かなと思う。他にいかがか。

山本委員 どなたか御存知なら教えていただきたいが、小田原球場は野球以外使用できる可能性はあるのか。それから小田原球場を管理しているのはどこか。

草柳副課長 小田原球場は建設部みどり公園課が管理しております。それから、小田原球場のグラウンドを野球以外でというお話でしたが、明確にお答えできないのですが、マウンドがしっかりできているのでなかなか他をと言うのは考えづらいです。

尾沢課長 使用の実例としては、星空観察会といったようなものを行ったことはあります。野球・ソフトボール以外のスポーツで使用した事は聞いたことがないです。

江島会長 他にいかがか。

設楽委員 先程の総合型地域スポーツクラブについて、現在の予算はどれくらいなのか。

尾沢課長 小田原市内に総合型地域スポーツクラブは2つありますが、支援ということでの予算はついていないです。

設楽委員 総合型地域スポーツクラブが活動するには施設が必要だが、市の施設は有料で、小・中学校を借りようとするとう地元優先でやりたくてもできないとの声がある。例えば、施設を無料にして開放できるようになれば、新しいクラブも誕生するのではないかと思うので、予算取りの検討をしていただくとスポーツ実施率65%にも近づくのではないかと思うので是非検討いただければと思う。

鈴木副会長 特定の人が会員になっているところに税金を投入することはできない。つまり、総合型地域スポーツクラブとして、会員から会費を取って特定の人にサービスするのであれば税金は投入できない。本来の総合型地域スポーツクラブの趣旨からずれたかたちで全国に伝わっている。本来は、ある地域のスポーツクラブならその地域の人全員が会員であって、そこで行うイベントに対しては受益者負担なので、いくらか取るということであれば、地域に対するいくらかの補助は行政でもできると思うが、会員制で会員にサービスするのにお金を出せというのは難しいと思う。その辺が整理されていないのでうまくいかないのだと思う。

江島会長 法的にも難しい部分があるが、今、色々と御意見をいただいたが、山本委員からも、オリ・パラまであと3年しかないということであるが、実際に小田原市で競技が行われるわけではない。先程意見にもあったが、小田原市で盛り上がりつつはない感じである。これからの3年でいろいろな事が行われてくればまた違ってくると思う。その前年のラグビーワールドカップについても、先日、小田原市で全日本女子の合宿があり、最終日に行われた香港との壮行試合では3,000人程の観客が来た。確かに小田原でラグビーが定着しているとは思えず、ラグビーを知らない人もいる。そういったことも含めて、やっていく事はたくさんあると思うが、何とかそういうものを定着させ、小田原にスポーツ振興の風を大いに吹かせたい。先程、スポーツ環境が整っているのかというお話があったが、私自身は整っていないと思っている。では、どのように整えて行けばよいのかという事になるが、スポーツ環境そのものが組織でもあり、人でもあり、施設面も大切で、スポーツをしようとする精神、スポーツとは何かについてもケアすることも大事だと思う。小田原市は自然があるが、それを十分に利用しているとは言えない。広報面も含めてこれからやっていく事はたくさんあると思う。今回の会議だけではなくて、周りの方の意見を聞いて出していただけるとありがたい。

最後にこれだけは言っておきたいことがあればお願いしたい。

鈴木副会長 江島会長にお尋ねしたいが、日本体育協会が来年の4月1日で日本スポーツ協会に変わるということが正式に決まったが、小田原市の体育協会はどうかされるのか考えておられるのかお伺いしたい。

江島会長 国も県も変わり、小田原市はどうしようかということは小田原市体育協会の中でも話題にはなっている。スポーツ協会にしてしまっているのか、「体育」と「スポーツ」の定義をどうしていくのかを議論している。小田原市の体育協会は他の体育協会と違って、スポーツ団体だけで構成されている訳ではなく地域の団体も抱えているので、そういう面でも非常に難しい状況ではある。

鈴木副会長 ありがとうございます。

江島会長 他にはいかがが。

山本委員 小田原で一番大きな施設と言う意味での小田原アリーナが非常に老朽化していて、使用禁止という貼り紙があちらこちらにある。その中に照明設備があり、オリンピックや国際級の試合を行おうとすると、各競技で照明の明るさの規定があるので、大会施設として合格する確率が低い。オリ・パラを機会に整備をするということはチャンスだと思うので検討いただければと思う。

江島会長 そのことについては体育協会でも小田原市に申し入れをしている。
他にはいかがが。

河戸委員 理学療法士の間で、介護保険を地域に返していこうと言う話になっていて、スポーツをしていて障害になって、もう一度スポーツをさせるために地域に帰ってもらうという時に、患者さんの情報を持っていないため、いろいろと調べなくてはならないので、市に聞けば何でも分かるという状況を作っていただけるととても助かる。

それから、親の観点から、子どもがスポーツを始めるといった時に、道具を貸してもらえるような環境や情報元を作っていただければと思う。

小田原アリーナの老朽化の話があったが、小田原アリーナには子どもが落ちる可能性のある場所が一か所あり危険である。河川敷もそうだが、子どもたちが安全に遊べる場所を確保していただきたいと思う。

江島会長 今の物品の話だが、山本委員のところではどうか。

山本委員 城下町スポーツクラブでは用具の貸出しをしている。ただし会員制である。

江島会長 それでは、本日の議題を終了させていただきたい。

司会 本日は、たくさんの貴重な御意見・御要望をいただきまして誠にありがとうございました。本日いただいた御意見・御要望を参考にし、今後の市のスポーツ振興に生かしていければと考えております。また、次回の課題にさせていただければと思っております。

次回の審議会につきまして、年明けの1月か2月頃を予定させていただいております。開催日や会場が決まり次第お知らせさせていただきますので、また御出席のほどよろしくお願いいたします。

皆様、長時間に渡り御審議いただき誠にありがとうございました。

これもちまして、「平成29年度第1回小田原市スポーツ推進審議会」を終了い

たします。